

第 13 回スポーツ少年団指導者全国研究大会 分科会概要報告

【B 分科会】

テーマ：「総合型地域スポーツクラブについて（実践編）」

座長：赤松 喜久

パネリスト：田中 安男・畑山 幸代・長岡 雅美

< 概要 >

B 分科会は、「スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブづくりの実践編」というテーマで、スポーツ少年団と総合型地域スポーツクラブの関係を、スポーツ少年団の認知度が、高い地域、比較的低い地域、その中間にある地域と言う形で、3つの地域における取り組みについて発表いただいた。

スポーツ少年団が地域で高い認知を得ていると思われる地域として、秋田県能代市の畑山幸代さんから、スポーツ少年団の活動をもって学校の部活動とみなす取り組みの事例が報告され、そういった取り組みの結果、小学校、中学校、高等学校と一貫したスポーツの指導体制というものが整ってきており、それらが、総合型地域スポーツクラブになりつつあるとの発表であった。

次にスポーツ少年団の認知度が中程度の地域として、愛媛県の北伊予ひまわりクラブの田中安男さんからスポーツ少年団を核とする北伊予ひまわりクラブでは、行政の支援を得ることを期待して総合型地域スポーツクラブづくりに取り組んだということではないが、行政との円滑な連携がないことには、少年団を核とする総合型地域スポーツクラブないしは少年団の活動もうまく進みにくく、行政との円滑な連携確保は重要であるとの意見があった。

3人目は、少年団の認知度が比較的低い地域における事例として、武庫川女子大学の長岡雅美さんから発表いただいた。そこは、小学校でも部活動が盛んな地域であり、さらに市の政策としてジュニアスポーツクラブが新たに動き始められた地域で、スポーツ少年団がその地域において活動を広げていくという余地がかなり狭められた地域であるが、市の政策をうまく使って、ジュニアスポーツクラブ、これをスポーツ少年団の活動としてやっていこうとする取り組みが紹介された。

最後に座長から、スポーツ少年団活動を阻害する総合型地域スポーツクラブは、スポーツ少年団の立場からは必要なく、スポーツ少年団がさらなる発展をしていくために、総合型地域スポーツクラブづくりを利用するという考え方で臨まれるといいのではないかとのおまとめがあり、B分科会を締め括った。